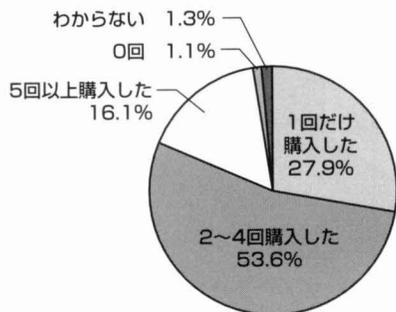


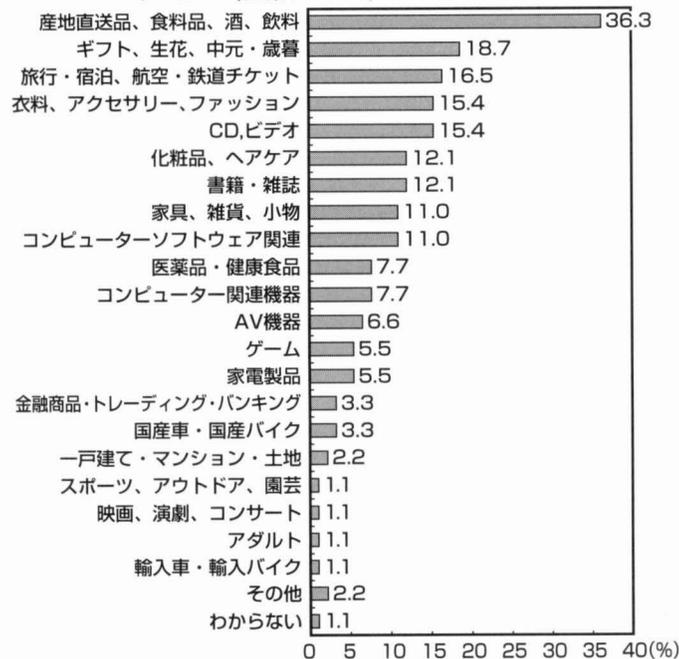
利用経験者5割超える

資料3-1-4 最近1年間の購入回数（個人、N=707）



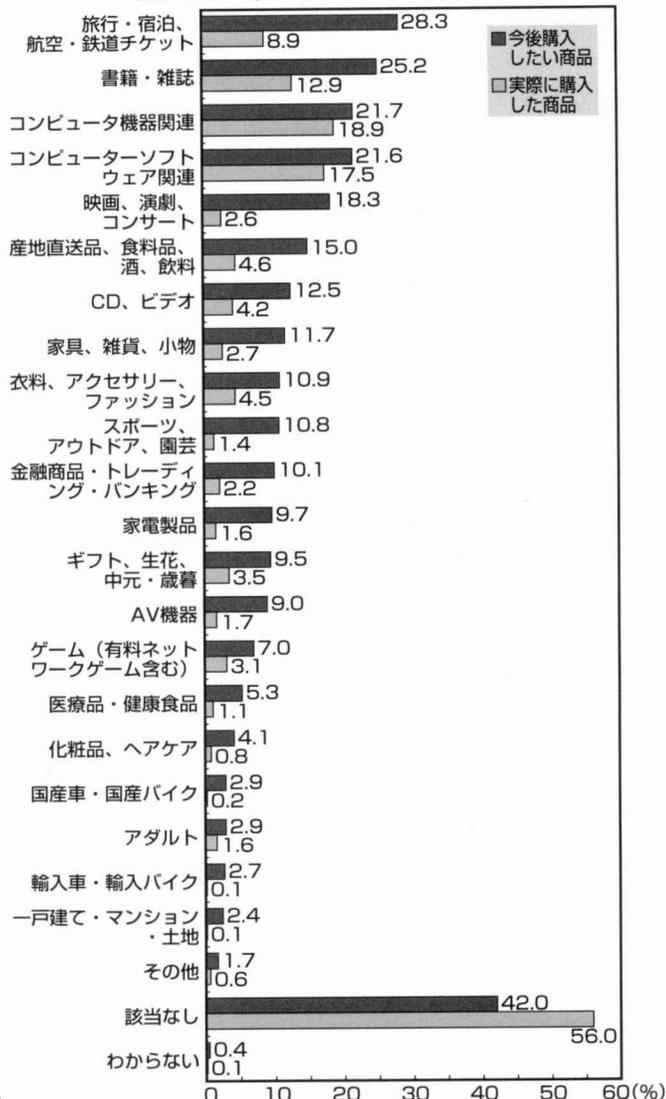
インターネット白書'99 ©インプレス、
Access Media International&IAJ, 1999

資料3-1-6 一般消費者向け直販サイトでの取り扱い製品・サービス（企業、N=91）



インターネット白書'99 ©インプレス、
Access Media International&IAJ, 1999

資料3-1-5 インターネットで購入した商品と今度購入したい商品（個人、N=1,606）



インターネット白書'99 ©インプレス、
Access Media International&IAJ, 1999

い。もともと「産地直送品、食料品、酒、飲料」の比率の高さは地方の中小企業が多く参入していることをうかがわせる結果でもあり、インターネットが少なくとも距離の壁を解消するメディアであることは裏付けられる点であろう。

市場規模拡大の傾向

現状では650億円程度で、市場規模はまだまだ小さいが、今後は大幅な成長が確実視される。例えば、ウェブを利用した情報発信の内容について、その意向を見てみると、現状では単なる企業案内や人材募集が上位を占め、「製品、サービスの販売や予約受付」を実施して

る割合は16.7%に過ぎない。だが今後の意向を見ると、単なる情報発信だけではなく具体的な「製品、サービスの販売や予約受付」を実施したいとする割合は28.0%と増加しており、ECへの具体的な参入をもうるむ企業が増加するであろうことを裏付けている（P.92資料3-1-7）。

インターネット通販を実施している企業側も「今後の売り上げは増加する」との見解が54.4%と最も多く、販売サイドも手ごたえを感じている様子が見取れる（P.92資料3-1-8）。また消費者サイドからみても、前掲の資料3-1-3で示す通り、オンラインショッピングについて「したことはないし、したいとは思わない」とするいわば絶対

拒否層は2割弱である。すなわち、インターネットユーザーの8割程度までは潜在ユーザーは見込めるということになり、マーケットの成長と成熟がこの点からも確実視されることになる。

ちなみに、2003年時点で消費者向けECに関しては3兆円を越えるとの予測もある（P.92資料3-1-9）。現状の通販市場は2兆2千億円程度であり、将来的には既存の通販市場を凌駕する新たなマーケットの創出も期待されるところである。

解説

次のページへ



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp